

## 中2国語定期テスト対策問題 【徒然草】

【『徒然草』の(原文)】

〔序段〕

・つれづれなるまゝに、日暮らし硯に向かひて、心にうつりゆくよしなしことを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。

〔第五十二段〕

仁和寺にある法師、年寄るまで、石清水を拝まざりければ、心うく覚えて、あるとき思ひ立ちて、ただ一人、かちより詣でけり。

極楽寺・高良などを拝みて、かばかりと心得て歸りにけり。

さて、かたへの人にありて、年ごろ思ひつること、果たしはべりぬ。

聞きしにもすぎて、尊くこそおはしけれ。そも、参りたる人ごとに山へ登りしは、なにことかありけん、ゆかしかりしかど、神へ参るこそ本意なれと思ひて、山までは見ず。とぞ言ひける。

少しのことにも、先達はあらまほしきことなり。

〔第九十二段〕

ある人、弓射ることを習ふに、もう矢をたばさみて、的に向かふ。師の言はく、「初心の人、二つの矢を持つことなかれ。後の矢を頼みて、初めの矢になほざりの心あり。毎度ただ得失なく、この一矢に定むべしと思へ。」と言ふ。

わづかに二つの矢、師の前にて一つをおろかにせんと思はんや。懈怠の心、みづから知らずといへども、師これを知る。この戒め、万事にわたるべし。

道を学する人、夕べには朝あらむことを思ひ、朝には夕べあらむことを思ひ、重ねて懇ろに修せむことを期す。いはむや、一刹那のうちに於いて、懈怠の心あることを知らむや。なんぞただ今の一念において、直ちにすることの甚だ難き。

(『新編日本古典文学全集 44 方丈記 徒然草 正法藏藏経記 歌集抄』による。)

一 『徒然草』について、次の(①)と(②)に当てはまる言葉の組み合わせとして、最も適切なものを、あとのアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。(二点)

『徒然草』の作者は(①)である。当時の社会や世相についての意見や批判、人々の教訓、自然や人生に対する意見・感想などが、作者の鋭い批評眼や美的感覚で書かれている。『徒然草』の根底にあるのは、仏教の思想と結びついた(②)という考え方である。

- |   |       |      |
|---|-------|------|
| ア | ①鴨長明  | ②あはれ |
| イ | ①鴨長明  | ②無常観 |
| ウ | ①兼好法師 | ②あはれ |
| エ | ①兼好法師 | ②無常観 |

二 次のA・Bについて、文章に誤りがない場合は○を囲みなさい。誤りがある場合は×を囲み、該当の番号を書いてその誤りを訂正しなさい。(二点×二)

A 『徒然草』は、『枕草子』、『方丈記』とともに三大随筆の一つに数えられている文学作品である。

B 『徒然草』の成立年代は、『方丈記』と同じ室町時代である。

三 部a、cを現代語訳に直しなさい。(一点×二)

四 部b、dを現代仮名遣いしなさい。(一点×二)

五 『徒然草』の(原文)の〔第五十二段〕に「仁和寺にある法師」が「かたへの人」に話かけた内容として「」を付けることができる部分がある。その部分の初めと終わりの三字を抜き出さなさい。(二点)

六 部①「山までは見ず」とあるが、その理由を三十字以内の現代語で答えなさい。(四点)

七 部②『徒然草』の(原文)の〔第九十二段〕の「ある人」と同じ人物を示している言葉を、「師」の発言の中から四字で抜き出さなさい。(二点)

八 部③『徒然草』の(原文)の〔第九十二段〕における「朝」の適切な読み方をひらがなで答えなさい。(二点)